

「いまこそ障害当事者の思いを制度改革で実現しよう」公開連続セミナー

愛知県重度障害者団体連絡協議会

〒466-0037 愛知県名古屋市昭和区恵方町 2-15

助成事業の概要

平成 22 年 12 月の助成申請時において、内閣府にて障害者制度改革に向けて議論されていました。この流れをどう地域の障害当事者に伝え、共に声を上げていくのかを考え、体験談を元に脚本を作成、構成演出している障害者劇団に公演いただくことで、自己発信と地域生活の大切さを文章ではなく劇を鑑賞することにより伝える。その後、政府の委員を講師として迎え、改革の現状を知り、障害者の地域生活を実現するためには何が必要なのかを議論し、参加者それぞれが意識を深めることができるよう、基調講演およびシンポジウムを実施しました。

また、公演を当初は4月に予定していましたが、大震災を受け、復興支援に全力を注ぐためチャリティー公演とし、参加費を東北関東大震災障害者救援本部に届け、各参加団体も募金活動を行いました。

○公演：平成 23 年 7 月 2 日（土）まちプロ一座による「勇気凛々物語」

○シンポジウム：平成 24 年 1 月 28 日（土）「障害者総合福祉法 骨格提言の動向は今」

事業の成果

東日本大震災復興チャリティー公演へ変更し、東北の視察報告と障害当事者を中心として構成されている劇団、まちプロ一座による「自由に人生を選んでええやん」というセリフなど、発信する「勇気」を与えてくれる演劇を会場の参加者に届

けることができたと思います。この公演では、障害があっても、楽しく「主体性を持って生きる」ことがイメージすることができ、若い世代の当事者にチャレンジ精神を注ぎ、講演後より、若い世代が率先して募金活動や被災地視察に参加し、当事者が街にいてることによって地域社会を変えていくという活動を行うきっかけにもなりました。

参加者の感想として、「漫画家になるために専門学校に行きたいと思っている」「じつは料理の勉強がしたいです」「一人ではなく結婚して二人暮らしがしたい」など、今まで仲間にも伝えていなかった気持ちを発信され、自分の夢を語るきっかけにもなりました。

「16 時半終演のため、帰りが遅くなるので行きたくても行けなかった」と遠隔地や施設入所者の声を後日いただきました。大きな反省として今後の企画に反映していきたいと思いました。

「障がい者総合福祉法の骨格に関する総合福祉部会の提言（以下、骨格提言と略す）」について、内閣府障がい者制度改革推進会議総合福祉部会委員の北野誠一氏より、総合福祉部会の骨格提言ができるまでのプロセスと今後の動向報告、地元団体に登壇いただき、事例と共に愛知県三河地方の問題点を認識できるシンポジウムを行うことにより、地域に密着した開催ができました。

講演終了後も、会場から今後の動向についての質問が多くあり、関心の高まりと情報の少なさという課題をいただき、「どんな良い法律に変わったとしても当てはまらない人はいる。だから人のつながりが必要」という感想には、多くの方が共感されていました。

■ 今後の展開

今回の成果と課題を踏まえ、我々が共通する県内の小さな声を大きく発信するため、県内多くの場所にて、国の動きと県内や地元の現状・当事者主体の楽しさを伝えることができる場を、地元の当事者が主体的に企画できる様、働きかけていきたいと思ひます。

また、障害者基本法・総合福祉法・差別禁止法についての情報収集と周知を深め、さらに多くの当事者の声として、国、愛知県および県内市町村に対し働きかけていきたいと思ひます。